

2019年 第79回 総会・講演会を開催

1. はじめに

道東技術士委員会では、6月14日帯広にて第79回総会・講演会を開催いたしました。

前半の総会では、前年度の決算報告と今年度の活動計画および予算案を発表し、そのあとに紅葉代表から、統括本部からの話題提供として、「技術士を巡る最近の動向 2019」に示されている技術士制度の改革案についての説明がありました。

そして後半の本講演会では、十勝総合振興局十勝農業改良普及センター主任普及指導員でおられる森久夫技術士を講師としてお招きし、平成28年度台風被害後の営農再開に対する支援として、関係機関・団体と連携した生産性を回復させるための取り組みを紹介していただきました。また、その後の情報交換会の中で平成30年度二次試験合格者と一次試験合格者の紹介も行いました。本稿ではこれら内容をご報告いたします。

2. 第79回 総会・講演会

○日 時：令和元年6月14日(金)

18:00～18:30 総会

18:30～19:30 (講演会)

19:30～21:00 (情報交換会)

○場 所：アパホテル帯広駅前

○出席者：43名(技術士41名、士補2名)

《総会》

前年度の決算報告と今年度予算案を発表した後、紅葉代表から以下の話題提供がありました。



《当委員会代表 紅葉克也 技術士》

「技術士を巡る最近の動向 2019」について

《紅葉代表からの説明》

今年度は、統括本部にて技術士制度が制定されてから60年が経過したことを鑑み、経済社会情勢や国際環境の変化を踏まえ、制度の見直しを審議されるとのことである。主な審議内容は次の通りである。

- 1) 国際的通用性の確保
- 2) 活用促進・普及拡大
- 3) 継続研さん・更新制の導入
- 4) 技術士補制度の見直し・IPD制度の整備・充実
- 5) 技術士試験の適正化
- 6) 総合技術監理部門の位置付けの明確化

また、審議内容等については各作業部会において対応方針の検討を行い、提言をまとめるとのことである。以上が紅葉代表からの説明であります。今後は私達も文部科学省及び日本技術士会のHPを定期的に確認し、その動向を注視する必要があります。

《講演会》

講演：「平成28年台風被害後の営農再開に
対する支援について」
～関係機関・団体と連携した生産性の
回復の取り組み～

講師：十勝総合振興局
十勝農業改良普及センター
主任普及指導員 森 久夫 技術士



《講師 森 久夫 技術士》

1) 台風被害の概要

農作物への被害状況			農業施設・家畜等の被害状況		
作物名	被害の概要	被害面積 (ha)	区分	被害概要	被害数
ばら菜	冠水、流失	5,051	特別施設	冠水、破損	9件
豆類	冠水、流失	5,118	畜舎、倉庫	全壊、流失	322件
てん菜	冠水、流失	2,889	農業機械	破損、流失	162件
スイートコーン	冠水、流失、土砂流入	3,357	その他施設	破損、流失	19件
その他野菜	冠水、流失	1,187	計		713件
飼料作物	冠水、流失、土砂流入	3,190	牛	水死	15頭
合 計		25,292	豚・子豚	水死	1,083頭
			ブリーダー	冠水	75,000羽
			乳牛	水死	1,332



表土が流失した農地(帯広市)



土砂が流入したてんさい畑(帯広市)

2) 災害対応

十勝での災害対応	
(1) 被害発生後の対応	
＜普及センター＞ - 単独による被害調査 - 各地の状況を把握 - 地域の指導農業者・農業士 - 重点地域の農業者 - 若手農業者等から	＜関係機関＞ - 市町村 - 住民の安全確保 - ライフラインの復旧 - OJA - 農業者の状況確認 - 農業被害の確認
被害全容は、災害後4～5日後に 情報共有	

3) 災害対応における課題と改善方向

＜課題＞ - 関係機関と連携した初動対応ができなかった - 被害後の生育調査や管理情報等、内部向けの情報収集に終始	被災農業者への対応が不十分
＜改善方向＞ - 早めの情報共有 - 被害作物や被災農家への対応を協議する場を設ける - 所内及び関係機関との初動体制の確認	

4) 復旧支援計画

農地災害復旧プロジェクトの始動	
○目的 復旧農地の生産力を早期の回復を目指し、土づくりの取組を支援する。	
○構成メンバーと役割分担 十勝総合振興局整備課：企画・運営・情報発信 南部及び北部耕地出張所：土壌調査、土づくり支援 農務課：関係機関の連絡調整 普及センター：生育・収量調査、施肥管理等の営農支援	
○活動 - 平成29年～平成32年の4年間 - 復旧農地における土壌の化学性・物理性の調査 - 復旧農地における作物の生育・収量調査 - 施肥管理等の営農支援 - 土づくりの推進・支援 - 排水改善等の農地整備の推進・支援	農業者との現地検討

5) H30 復旧プロジェクトの活動と連携

○活動 3月 ほ場の確認 4月 施肥提案 5月 砕土調査と耕起法の提案 6月 施肥管理等の営農支援 6月～10月 生育調査 - 土づくりの推進・支援 - 排水改善等の農地整備の推進・支援	
＜プロジェクトの連携＞	
JA(農家) 圃場提供 調査協力 営農指導 情報共有 振興局(調整・整備・出張所) 調査共有 普及センター 技術共有 農業試験場 コンサルタント等 委託 考察 調査協力 情報共有 市町村 農村振興局 農村計画課 農地整備課 農村整備課	

6) 今後の災害に備えて

1 地域情報の整備

○データの集約・整備
農家名簿の整備、作物の作付面積、耕地図等

○農地版ハザードマップの作成
過去の災害情報から

2 農業基盤の整備推進

○地域の生産基盤の整備状況と問題点を把握

○基盤整備のあり方などの検討

3 被害後のフォローアップ体制

○必要となる情報の整理
被害状況に基づく技術情報
短期から長期的に必要な対応内容

4 被害対応記録の蓄積

○災害発生から被害調査・復旧までを記録・蓄積

○定期的に災害時における対応を確認
危機管理に対する意識の向上と維持

5 職員全体への災害対応の伝達

○事前に災害を想定し、対応方法を検討

○初動調査から事後指導経過などを一連の対応を整理

○OJTなどによる、災害対応の流れを整理・検討
災害に対するスキルアップ

以上、森講師より初動の対応、復旧計画、現在に至るまでの復旧活動について説明して頂きましたが、最後に農業者の生産性向上には、土壌に詳しい基盤整備部署と作付、生育に詳しい営農指導部署の連携が重要であるとお話されていました。

3. 情報交換会

情報交換会では、他部門技術士との意見交換や同種業務等における課題点の対策実績の情報交換など、有意義な時間となりました。

また、後半では平成 30 年度二次試験合格者および、若年女性技術者(19 歳、21 歳)2 名の一次試験合格者を紹介するとともに、合格の喜びと今後の目標などを話して頂き、参加者から暖かい拍手が送られておりました。

○平成 30 年度二次試験合格者



写真左から
阿寒協立土建 阿部 和弘 技術士(建設)
太平洋総合コンサル 渡辺 孝行 技術士(建設)
帯広市役所 岡田 剛 技術士(建設)

○平成 30 年度一次試験合格者



写真左から
北王コンサルタント 曾我部美優さん(建設部門)
〃 関根 絵里さん(建設部門)
曾我部さん 19 歳、関根さん 21 歳…凄い！

5 名の皆さん 合格おめでとう御座います！

情報交換会最後は、当委員会幹事であります(株)シビルデザインエンジニアリングケアの橋本技術士に閉めのご挨拶を頂き、盛会の内に終了致しました。次回は、11 月上旬釧路にて第 80 回講演会等を開催する予定です。

次回も多数の参加をお待ちしております。